第10回 受賞校

修学旅行ホームページコンクール

全国修学旅行研究協会

「学びの姿」的確に表出

ウェブ制作の懸命さ伝わる

全国修学旅行研究協会（中西朗理事長）は、全国の小、中、高等学校を対象に、修学旅行にかかわるホームページ（HP）の工夫などを審査して、毎年表彰している。第10回となった今回は、大賞作品を募り、旅行中や事前、事後の学習内容、ホームページの構成、活用の文部科学大臣奨励賞、部門別優秀賞の3校、入選の4校がそれぞれ受賞した（既報）。

昨年9月1日から12月28日までの募集期間に、全国から312校がエントリー。近畿日本ツーリストの吉川勝久社長、観光経済新聞社の江口恒明社長ら旅行、教育関係者で組織する審査委員の採点で受賞校を決めた。

中西理事長は「子どもの学びを大切にした修学旅行の展開が目立った。先生方の意気込みや子ども自らが学びを立ち上げる姿を深く感じ取ることができた」とコメント。

受賞作品の講評

◆文部科学大臣奨励賞（大賞）＝一色町立一色中学校

いろいろな事業所をまわる独特の班別活動はユニーク。事前から事後まで分かりやすく表現されている。メニューに一覧性があり各内容にアクセスしやすい。個人としての学びと集団としての学びの両方をていねいにまとめてある。事前の学習をさらに具体的に表現できると良かった。

リンクを効果的に使って、目的から編集後記まで目的ページにすぐにたどりつくように工夫されている。班別行動のまとめも細かく、総合的な学習としての修学旅行への取り組みの様子がよく分かる。事後学習で、「次年度に向けての発表会」という取り組みは貴重な機会であると感じた。また、来年修学旅行に行く学年への活動がある所も優れている。ホームページの構成と操作性が秀逸。学習の様子がよく分かる。

◆優秀賞／高等学校部門＝新渡戸文化高等学校（東京都）

入選＝小平市立小平第六小学校（東京都）▽同＝益田市立吉田小学校（島根県）▽同＝大東市立住道中学校（大阪府）▽同＝帯広北高等学校（北海道）

◆優秀賞／小学校部門＝河南町立白木小学校

HPの構成が秀逸で、活動の流れに沿ったページ構成はとても見やすい。また、写真を使って活動内容を具体的に表現できていて分かりやすい。テーマをしっかり設定し、テーマに沿って児童の学びを文章等で表現できている所も素晴らしい。個々の活動での気付きや学びが表現されているとなお良かった。

平和学習も大阪の体験と関係させている所が良い。広島と姫路の遊園地、教員の下見、事前、当日の学習と事後の発表会がいずれも充実している。学習のねらいや児童の取り組み計画などが一覧できるようなページがあるともっと充実できよう。事前学習から事後学習までしっかり取り組んだ様子が分かりやすくまとめられていた。事前に役割分担を決め、各自に責任と自主性を持たせている所など、人間形成の観点からしっかりとした指導がなされている。

受賞校

文部科学大臣奨励賞（大賞）＝一色町立一色中学校（愛知県）

優秀賞・小学校部門＝河南町立白木小学校（大阪府）▽同・中学校部門＝栃木市立都賀中学校（栃木県）▽同・高等学校部門＝新渡戸文化高等学校（東京都）

◆優秀賞／高等学校部門＝新渡戸文化高等学校

事前、事後学習に非常にしっかり取り組んでいる。教科の学習内容と関連づけて指導している点や、それを公開している点も評価できる。事後の新聞もうまくまとめられている。

全体の構成も整理されていて見やすい。操作もしやすく、分かりやすい。彩りや配置がとても良い。リンク切れの箇所がある所と、全体に空白スペースが多い所がやや残念。HPは、「おっ、と思わすトップページ」が勝負。この点では優れている。HPのデザインも見やすく工夫している。

◆優秀賞／中学校部門＝栃木市立都賀中学校

実行委員会による事前準備の様子が、写真や資料を活用して分かりやすく表現されている。構成もシンプルで見やすく、また、生徒による手作り感あふれる内容も素晴らしい。HPの作成に努力した様子が伝わり好感が持てる。とても凝った作りで、修学旅行のアルバムとしての観点から良く構成されているが、凝りすぎていて結果として少し見にくくなっている点があるように感じる。

修学旅行全体の目的意識や体験を通して学んだことについての記述があるとなお良かった。

事前学習や事後学習の1つとして「フォトコンテスト」をするなど、工夫された学習方法が目を引いた。

◆優秀賞／小学校部門＝河南町立白木小学校

活動の流れに沿ったページ構成はとても見やすい。また、写真を使って活動内容を具体的に表現できていて分かりやすい。テーマをしっかり設定し、テーマに沿って児童の学びを文章等で表現できている所も素晴らしい。個々の活動での気付きや学びが表現されているとなお良かった。

平和学習も大阪の体験と関係させている所が良い。広島と姫路の遊園地、教員の下見、事前、当日の学習と事後の発表会がいずれも充実している。学習のねらいや児童の取り組み計画などが一覧できるようなページがあるともっと充実できよう。事前学習から事後学習までしっかり取り組んだ様子が分かりやすくまとめられていた。事前に役割分担を決め、各自に責任と自主性を持たせている所など、人間形成の観点からしっかりとした指導がなされている。

文部科学大臣奨励賞の受賞作品

優秀賞／高等学校部門の受賞作品

海外教育旅行の実態

日修協まとめ

日本修学旅行協会がまとめた海外教育旅行実態調査（2010年度）では、調査結果を踏まえて海外教育旅行のリスクマネジメント、あるいは訪日教育旅行の受け入れなど全体的な総括をしている。概要は以下のとおり。（18面に関連記事）

10年度　海外教育旅行の総括

逆風で実施率が低下

リスクマネジメントが必要

「教育旅行」は、一般の旅行とは異なり、学校の責任の下に実施する旅行である。ゆえに実施には安全第一で臨むことが強く求められる。そのため国際情勢、感染症、社会経済事情等の諸問題により、その実施が大きく左右されることもある。

09年度における海外教育旅行全体の計画数は2620件だったが、今回の調査によりその実施数が2304件（87・9%）に減少したことが明らかになった。

この計画数と実施数のひらきにおける主たる事由は、21年度当初から芳（かんば）しからざる社会環境下（新型感染症、社会経済事情、国際情勢の諸問題、燃油サーチャージ問題）にあり、海外教育旅行あわせて訪日教育旅行フィールドが、強い逆風にさらされることは容易に予想された。

これからも、いやおうなしに押し寄せて来るグローバル化の波を先読みしながら、リスクマネジメントをさらに推し進めることは必要なことである。

10年度における計画数は2684件16万5934人となった。これを平穏時（20年度の計画数2782件20万8052人）に比べると件数96・5%、人員79・8%である。

隔年の計画数の比較ではあるが、09年3月に発したパンデミックを主としたダメージなどをかなり受けていることがうなずける。また、いまなお計画数や人員などにおいてその尾を引いていることも分かる。

しかし、これからも社会のグローバル化が進行する中、学校が推進する国際理解教育や相互交流、相互理解なども、潜在する新たなテーマと融合しながら、海外教育旅行はさらなる進化を遂げるものと思考する。

マクロな捉え方ではあるが、地域別海外修学旅行に対する取り組み状況については、ヒンターランド（後背地）の相違などにより地域それぞれの特性がうかがえる。ちなみに地域別件数と人員では、関東が266件4万7985人、近畿が218件3万1910人、中部が194件1万8715人、九州・沖縄が157件1万5736人、東北が111件1万2844人、中国が101件7746人、北海道が49件4490人、四国が48件2505人となる。

訪問国・地域では、韓国206件2万4274人、オーストラリア169件2万1194人、アメリカ合衆国134件1万5757人、中国100件1万76人などが目にとまる。

また、10年度の都道府県における海外修学旅行計画件数（公私・小中高）の上位は、大阪府、静岡県、東京都、京都府、神奈川県、埼玉県、福岡県、愛知県、兵庫県、広島県などで、公立、私立を問わず多くの学校が海外修学旅行を計画している。

中学校の特徴は、高等学校に比してまだまだ件数は少ないが、公立中学校で海外修学旅行を計画しているところも増えつつあり、京都府、静岡県、兵庫県、高知県などにうかがえる。また、公立・私立中学校における予定校では、京都府、埼玉県、東京都、千葉県、福岡県、大阪府、静岡県、兵庫県、愛知県などの都道府県が挙げられる。

近年アジアの諸国をはじめとし、オセアニア、欧米、中南米などからの「訪日教育旅行」もさかんであるが、08、09年度は、世界金融危機、パンデミック、社会経済情勢などのあおりをうけて、潜在性はあるものの、あまり芳しくない。

しかし、このフィールドは、これからも学校教育のさらなるグローバル化にともない、学校間（姉妹校）交流を主とした相互交流が盛んになるとみられる。今日、学校教育の置かれた社会的環境や国際化の波、グローバル化における光と影を考慮すると、海外教育旅行には「危機管理体制整備への問題意識とそのソリューションに向けたたゆまざる実践」が不可欠であり、訪日教育旅行には「交流の受け入れ態勢」や「ホームステイ受け入れ」における基盤のさらなる整備が望まれるところである。

それらの諸課題が適宜解決されてこそ、学校におけるグローバル教育はさらに進化し、国際力、グローバル・マインド（世界市民）、ひいては「共生の芽」の育みにつながる。

環境学習がテーマの修学旅行

九州新幹線全線開業で水俣の環境学習が増加

3月12日の九州新幹線全線開業を利用して熊本県の水俣・芦北地域の環境学習を実施している学校が増加している。同地域では「環境」をキーワードに4つの分野の修学旅行メニューを実施できる。今回は九州新幹線を利用して水俣を訪れる計画のある学校の事例を紹介する。

従来の水俣・芦北地域への修学旅行では、新幹線または航空機で九州に入り、バスに乗り換えて水俣に入るケースが多かった。今回の九州新幹線全線開業を受けて、ある関西圏の中学校は、最寄りの新幹線の駅から修学旅行専用列車を利用し、博多で乗り換え、一旦、鹿児島中央まで南下し、鹿児島の知覧で平和学習などを実施し宿泊。熊本県にバスで移動し、人吉で球磨川のラフティングを行い、水俣では環境学習。復路も九州新幹線で博多駅に。その後、修学旅行専用列車で帰る。

東京の高校の場合は、羽田空港から鹿児島空港に入り、知覧での平和学習や鹿児島市内の班別研修を実施した後に、九州新幹線で熊本に移動。熊本市内で班別研修し、人吉温泉に宿泊。翌日は終日水俣で環境学習。その後、鹿児島空港に移動し、羽田に帰る。九州新幹線を利用し、移動時間を短縮させ、学生の移動による負担も減らす。

新幹線はバスに比べて旅費をアップさせてしまうが、水俣の環境学習は安価な体験プログラムが多く、内容も学習効果が高いものが多い。滞在時間を長くとって、交流の時間を長く確保できるメリットもある。

博多から新水俣へは、九州新幹線「さくら」でおよそ69分、各駅停車の「つばめ」で78分。鹿児島中央からは「さくら」でも「つばめ」でもおよそ32分（列車によって所要時間は若干異なる）。

【環境学習のテーマ】

①水俣病とのかかわりを学ぶ

修学旅行では、さまざまな立場で水俣病と水俣にかかわった人々の自宅や仕事場を少人数で訪ね、直接話を聞く「水俣に聴くプログラム」がお勧めだ。水俣病患者とその家族、漁師、水俣という地名に泣かされてきた蒲鉾屋、水俣出身と言えなかった市民などの生の声を、交流しながら聞ける貴重なプログラム。参加した生徒たちが水俣病の体験談や苦労話などを聞き、熱心に質問する姿が毎回見られる。

②環境について考える

「環境モデル都市」として国から認定を受けた水俣市では、ガラスビンを6種類に分別するなど、ごみの分別23種類に分別。ごみの分別を体験したり、エコタウンを見学できる。

③暮らしと地域づくりを知る

芦北町には、明治初期から伝わる伝統漁法の「うたせ漁法」がある。帆船による漁で、美しい不知火（しらぬい）海を楽しみながら、乗船体験でき、漁も行うことができる。

水俣市の山間部の地区は、村全体を博物館に見立てた「村丸ごと生活博物館」となっており、地元の人々が生活学芸員として村の中を案内しながら散策を楽しんだりする田舎ならではの体験プログラムがある。

④楽しく遊び自然と向き合う

津奈木町には、「緑と彫刻のあるまちづくり」の拠点施設として整備された「つなぎ美術館」を見学できる。

修学旅行だけでなく、研修旅行や視察の団体も多い。とくに近年は、海外からの研修旅行の受け入れも進んでいる。

水俣湾を望む親水護岸での慰霊セレモニー

うたせ船に乗り不知火海を感じる体験（網漁と魚釣り）

問い合わせ先
NPO法人環不知火プランニング
〒867-0045
熊本県水俣市桜井町1丁目1番1号
TEL：0966-68-9450
FAX：0966-63-5909
E-mail：moriyama@mkplan.org
http://www.mkplan.org/

京都　映画のテーマパーク

東映太秦映画村

DS利用が大人気

見る・作る・学ぶ・参加する体験

「東映太秦映画村」（京都市右京区）では、「見る・作る・学ぶ・参加する」をテーマにした、映画村ならではの体験学習プログラムが修学旅行生に好評だ。

映画を題材にした体験学習プログラムでは、「ドラマ映像講座」がある。ドラマ作りが学べる講座で、教材シナリオをもとにコンテ作りや、コンテを元に撮影されたサンプル映像を見て、ドラマ作りの仕組みを学習する。

ほかにも、俳優と同じ本格的な扮装で江戸の町を歩く「本格的時代劇扮装」や「着物着付け体験」、「殺陣（たて）講座」など、時代劇映画の登場人物になったような貴重な体験ができるものもある。

江戸庶民の生活の知恵を教えてくれるエコなどにスポットを当てた「寺子屋おもしろ体験」は、映画製作用の小道具を使い、映画村の俳優が時代劇の扮装で講師を務める。「大江戸暮らし編」と「大江戸環境編――江戸時代は循環型社会」の2コースがある。

京都の伝統産業の体験学習もあり、京扇子、京うちわの手描き体験のほか、清水焼絵付け体験、紙あんどん、万華鏡の手作り体験などがある。各業種の専門家が講師を務め、ていねいに指導。映画村内で体験できるので、移動時間が短縮でき、多くの学校が修学旅行のスケジュールに組み入れている。

班別研修に最適な、少人数用のメニューとしては、ろくろ体験（1回につき2人まで）、清水焼絵付け体験（1回につき12人まで）、京扇子絵付け体験（1回につき10人まで）などで。

DSで時代劇をテーマにしたゲームや映画村案内が楽しめる

寺子屋おもしろ体験

ドラマ映像講座

清水焼の絵付け

どがある。

また、昨年3月からは、学校教育にも導入されている携帯ゲーム機ニンテンドーDSのワイヤレス機能を利用したサービス「ニンテンドーゾーン」を開始。ニンテンドーDSがあれば、時代劇をテーマにした謎解きゲームと多言語での映画村案内の2つのオリジナルコンテンツが無料で楽しめる。

東映太秦映画村は、時代劇のオープンセットを公開する日本初の映画のテーマパーク。劇場映画やテレビの人気番組の撮影、日本映画の貴重な資料を見学できる。1975年のオープン以来、映画ファンや家族連れ、修学旅行生など幅広い層から根強い人気がある。

パンフレットの郵送、申し込みなど、体験学習に関する問い合わせは、東映太秦映画村（☎075・864・7716）まで。